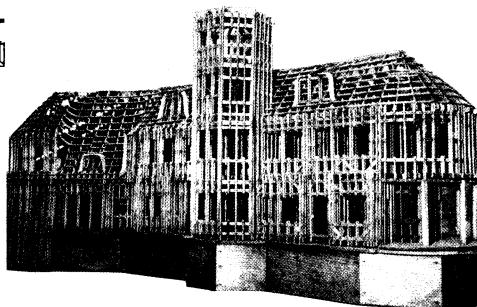


資料室だより Vol.2

No 11. 12. 1987. 3

大磯町立図書館
郷土資料研究室

大磯町大磯 992 番地
TEL. 0463-61-3002



城山荘模型

城山荘は、三井家（三井高棟氏）の別荘として、イギリスの片田舎の家をモデルに昭和9年に建築された。屋根は草葺で、京都・奈良をはじめ各地の有名社寺の古材を利用してつくられている。写真の模型は、実物に酷似していることから、おそらく城山荘はこの模型を基礎として建築されたものではないかと思われる。

なお、郷土資料館は、この城山荘に外観的イメージを求めて計画されている。

郷土資料館の建設に向けて～特色のある展示をめざして～

大磯町の歴史については、既にいくつかの文献（堀江・1953、¹⁾ 池田・1974、²⁾ 池田・1981、³⁾ 鈴木・1978、⁴⁾ 1980、1983）でも明らかのように、旧石器時代から近代に至るまで、非常にすぐれた特性を有しています。本稿では、「大磯町の歴史」の中でも特に「人間の歴史」を中心に各時代ごとにその特徴を抽出した形でとりあげ、郷土資料館における展示の基礎としての郷土一大磯町の特色について考えてみたいと思います。

1. 旧石器時代（1万年以前）

今から1万年以前、富士山がまだ盛んに活動していた頃、わが国でも既に人間が生活していました。神奈川県内では特に、藤沢・座間・大和・相模原を中心とした相模野台地に多くみられます。わが大磯町にも1か所先人の残した遺跡があり、非常に精巧な石器（槍先形尖頭器）が出土しています。当時は、海が後退し、東京湾はほとんど陸地化していました。もちろん、相模湾も相当後退していたはずですから、水没してしまった遺跡もあるでしょう。

2. 繩文時代（9000～2300年前）

この時代になると大磯町では、遺跡が急増します。環境が良好であったこともその一因でしょうが、やはり弓矢の出現と土器の製作がこのような現象をもたらしたものと考えられます。これらの遺跡は、丘陵を中心とした地域に21か所、丘陵下の沖積段丘上に6ヶ所、計27か所確認されています。その中でも、中～後期の遺跡が多く、それが当町の特徴となっており、展示資料も相当あります。なお、大磯小学校遺跡、平遺跡、石神台遺跡は当町を代表する遺跡といえます。

3. 弥生時代（B. C 300～A. D 300）

弥生時代の遺跡は、前時代に比べ半減してしまいます。その理由は定かではありませんが、縄文時代晚期にかなりの噴火（富士山）があったことが予想されます。この時代の特色は、稻作の開始と鉄器の伝播にあります。人々の生活の基本は農業にありました。その反面では、前時代に引き続き狩猟や漁ろうもかなり残っていたようです。かって、大磯町には弥生時代の遺跡はないと言った学者もいましたが、馬場台や坊地などには相当規模の集落が予想されます。

4. 古墳時代（A. D 400～700）

この時代は農業の発展とともに次第に貧富の差が激しくなり、有力な人物が出現し、大規模な古墳が造られた時代ですが、大磯町には、4～5世紀の古い大型古墳ではなく、集落のみが存在するという特色をもたらします。その集落も葛川、長谷川、血洗川など河川沿いの高台に多く見られ、前半は規模も小さいようです。古墳については、釜口古墳（県指定）が有名で、その造りの見事さは県下一といわれており、出土した青銅製散蓮華形小匙は、奈良興福寺や正倉院に類例があることから、その関係がしのばれます。この時代の後半には、横穴墓が登場します。現在その数は、約70群、500穴以上確認されていますが、これは既に開口しているもので、未開口のものを含めれば1000穴にはなるでしょう。

このように当町には、古墳時代の遺跡・遺物が数多くあり、1つの特色としてとらえることができます。

5. 奈良～平安時代（701～1184）

この時代、集落は前時代に引き続き、河川

流域に展開していますが、規模が大きくなっていることが特徴です。馬場台遺跡では、平安時代の住居址が検出されていますが、これは縄文時代と変わらない竪穴式であることがわかっています。また、鉄製品も検出され、庶民に鉄器が普及していたことがうかがえます。後半には、「相模国府」がこの地に遷されたといわれていますが、現在、その確証は発掘調査の面からはつかめていません。文化財では、王福寺の国重文「薬師如来坐像」や蓮花院の「聖観音菩薩」など、この時期の街道沿いの寺には藤原仏が多く見られ、仏教が庶民の間に広く浸透していたことがうかがえます。

6. 鎌倉時代（1192～1333）

源頼朝が鎌倉に幕府を開いてから、鎌倉一大磯は非常に親密な関係をもつようになりました。それは、古鎌倉街道と呼ばれる街道が町内に残っていることからもわかります。同時に、特に有名なものとして、曾我十郎と虎御前にまつわる数多くの伝説をあげることができます。文化財では、慶覚院の県重文「地蔵菩薩坐像」（建治4年＝1278）や善福寺の県重文「弘法大師坐像」・「阿弥陀如来立像」など貴重な鎌倉仏が残っており、これも当町の特色の一つといえるでしょう。考古学の面では、馬場台遺跡出土の舶来陶磁器があります。おそらく、そのルートは、中国一鎌倉一大磯と思われ、当時こうした高級品を使用するにふさわしい人物ないし建物の存在が予想されます。

7. 室町時代（1338～1573）

大磯町では、この時代に関係する資料は非常に少なく、残っているものもそう多くはありません。高麗山・王城山・城山などは、当町を代表する山ですが、こうした山々は天然

の要害として、しばしば山城として使用されたことが諸文献より明らかにされています。室町期の仏教彫刻は、楊谷寺の町重文「薬師如来立像」（文明13年＝1481）、地福寺の町重文「弘法大師坐像」（天文11年＝1542）ほか銘はないものの金竜寺や慶林寺など意外と多く残っています。また、地福寺には後北条氏の古文書が残っています。

8. 江戸時代（1603～1868）

徳川家康が天下を平定し、全国的に安定した時代に入ったわけですが、諸施策の実行により街道が整備されたことが当町にとっては唯一の特徴といえます。すなわち、宿場の誕生です。大磯は品川から数えて8番目にあたり、本陣3か所、その他大・中・小の旅籠が約80軒。これは、現在の国道1号線、神明町～茶屋町にかけて展開されたもので、その繁栄ぶりや宿泊大名名簿・内容など細かい部分については、「小島本陣資料」に詳しく記載されています。また、仏像・石造物・古文書などこの時代の資料は比較的数多く残っており、特に現在でも旧東海道の松並木が2か所残っている点は注目されます。

9. 明治時代以降（1868～）

文明開化のこの時代、大磯町では宿場としての機能が完全に停止し、名もない一漁村と化してしまいました。この不振を打破したのが、松本順です。すなわち、海水浴場の設立で、明治18年のことです。その2年後、鉄道が開通し、大磯駅が誕生すると一躍その名が全国的に知られるようになりました。当時、大磯町には政財界人が競って別荘をたてたことが諸文献よりわかりますが、遺品となるとその数は多くありません。しかし、大磯町の歴史の上で、明治はやはりとりあげなければならない非常に重要な時代といえるでしょう。

10. 特色のある展示をめざして

以上のような史実をふまえ展示を考えていいくわけですが、大磯特有の歴史文化環境を把握しつつ、印象的な展示となるよう大きな3つの柱を設けます。「自然と生活」「歴史的変遷と交通」「民俗と文化」この大きな流れのなかで、各々のいくつかの区分により展示を展開していきます。

展示はできる限り実物資料を中心に、造型・映像・グラフィックなどの展示情報をもって構成していくことを考えています。また、常設展示室の他に企画展示室を設け、ここでは常設展示での内容をクローズアップしたり、大磯にとらわれない大きなテーマを設定する場として、あるいは研究発表の場としての機能をもたせていきたいと考えています。

- 1) 堀江 重次「中畠勢誌」 1953 2) 池田彦三郎「大磯町歴史年表」1974
3) 池田彦三郎「大磯歴史物語」1981 4) 鈴木昇「大磯の今昔」1978, 1980, 1983

清水北横穴墓群の調査について

大磯町教育委員会では、3月5日から15日まで、大磯町東小磯646番地の山林にある『清水北横穴墓群』を調査しました。これは、郷土資料館の展示の一資料を得るために実施したもので、小規模ながら多大な成果をあげることができました。

この横穴墓群については、既に昭和29年（1954）に調査が行われていますが、その時点では総計14基の横穴墓が確認されています。そして、今回対象とした第5号穴からは須恵器片・鉄鏃片が出土していることが記録されています。
※

横穴墓内部は、比較的乾燥していて、流入土もなく、全体的に保存状態は良好でした。以前まではこうした遺骸を安置する部分（玄室）が調査の対象になることが多かったのですが、最近では入口部分（前庭部）まで調査が進んできているのが現状です。

この第5号穴についても集中的に前庭部を調べました。その結果、階段状の入り口を発見することができ、更に多量の須恵器大甕の破片を検出することができました。おそらく、入口手前では墓前祭や追善供養を行ったと考えられます。また、この横穴の造られた時代については現在、土器を分析中ですが、およそ奈良時代後期と考えられます。

末尾になりましたが、地主である宮代幾三氏には多大な御理解・御協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

※ 大磯町文化財調査報告書第1集
神奈川県大磯町の横穴（1964）



玄室



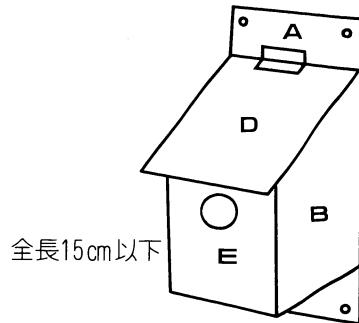
開口部

大自然なんでも観察ノート①～スズメ～

ぼくは、大自然の鳥、こん虫などが大好きです。大自然てどんな物だろうと思ってこの本を書き始めました。家の近くには、何がいるかな、なんびきいるかなあと考えながら書き始めました。

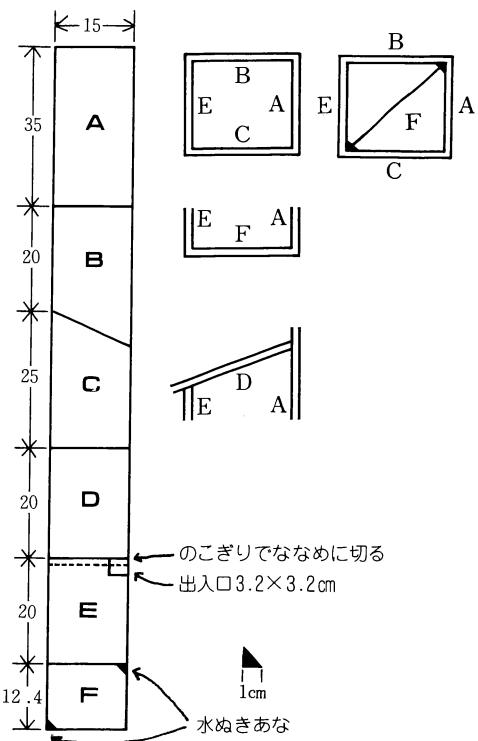
ぼくの家の庭には、えさ台があります。毎日スズメが「チイチヨッチヨッジヨッチ」と鳴きながらごはんを食べています。でも時どきけんかをしてとてもうるさいです。ごはんをえさ台にのせてない時は、ごはんがくるまでまっています。でも、どうしてもこない時は、おこってきくの芽などを食べてしまします。

前、はく物館で、巣箱を作ったのを庭の木にかけて、6週間ぐらいしたら、巣箱の中にスズメが入っていきました。それから、わらや毛を中に入れて、たまごを産む所を作っていました。それで、たまごを産んだみたいで親は、ほとんど出てきませんでした。それから、8日ぐらいたつと、ひながかえったみたいで、急にスズメの声でうるさくなりました。今度は、親鳥は小さなえさを取ってきて、ひなにあげていました。10日ぐらいたつと、ひなが大きくなって飛びたっていきました。それで、ぼくたちは、巣箱を取って、中を見たら、ふんがたくさんありました。わらや毛も、すごくいっぱいありました。巣箱をきれいにしてから、ぼくたちは、同じ木に巣箱をかけました。



全長15cm以下

巣箱の作り方



- 板は雨にあたってもいたまないじょうぶなスギ板をえらんで、あつさ13ミリぐらい。
- 巣箱は、人目につかない、太い木のえだが少ない所で、下から3~5メートルの高さにかける。
- シロなわで、しっかりゆれないように、くくりつける。

(国府小5年 渡辺拓也)

～五郎十郎の足跡～

西小磯・白岩神社裏山は、大きな石が多数露出しており、一種獨得な景観をつくりだしている。その頂上付近、一際目立つ大きな石には「五郎十郎の足跡」が残ると伝えられている。「五郎十郎」はここから大きな石を投げたといわれ、これはそのときつけられた足跡だという。投げた石は数年前まで、やはり西小磯のシチケンクボという畠中にあった。

「五郎十郎」とは、言うまでもなく、曾我五郎・曾我十郎を指しているのであるが、それぞれの個性が失われかけており、一般に「五郎十郎」と、混同して語られている。

このような異常な力の持ち主の話は各地に伝えられており、県内でもデイダラボッチと



呼ばれる巨人伝説が残っている。五郎十郎の足跡も、そのような伝説が、地元の有力な歴史的伝説に結びつけて語られたものと思われる。

～資料室のうごき～

10 / 7 · 28

郷土資料館建設準備委員会議

13 · 31

郷土資料館建設委員会議

14 郷土資料館施設及び展示打合せ

11 / 28 郷土資料館施設及び展示打合せ

12 / 4 · 17

郷土資料館施設及び展示打合せ

1 / 12 · 22

郷土資料館施設及び展示打合せ

16 城山地域調査特別委員会議

議員全員協議会（城山関係）

26 文化財防火デー巡回指導

28 學習会（58年度婦人学級OG会）

2 / 9 · 17 · 23

郷土資料館施設及び展示打合せ

12 議員全員協議会（城山関係）

20 博物館等職員研修会

～寄贈資料（10月～2月）～

ご協力ありがとうございました。（順不同・敬称略）

資料名	受入先	地区名
キセルイレ・半纏	加藤嘉義	大磯
打掛(一部分) 短冊	渡辺美代	寺坂
写真、絵はがき 他	峯尾倫子	二宮
医療器具 他	村岡よ志じ	大磯
ゲタスケート 他	並木智義	〃
キセルイレ、判取帳	飯田政尚	〃
ハタオリ機 他	鈴木美保子	〃
雛人形 他	土屋隆夫	〃
古書籍	渡辺広平	西小磯
漁具 他	環境清掃課	

昭和62年3月31日 発行

編集発行 大磯町教育委員会社会教育課

所在地 大磯町東小磯183

TEL 0463 (61) 4100